　　　　2023.5.13　　　「現代のキリスト教世界の動向を概観する」　録音は非公開

　　　　日本福音学校新宿校にて　　　　　レジメ　　　　　　　　　　　　　渡部　信

1. 自分史
   1. キリスト教信仰決心の出来事

神との出会いの原体験が誰でもある。

* 1. 献身の召命の出来事

　　　　神の愛は、供与の愛であること　　献身の決意

1. キリスト教神学の世界へ（神学生時代）
   1. 新正統主義神学との出会い

神学は必要だけれど（神は裸でなく、衣をまとわれている）、しかし衣には究極的な答えはない。伝道者への道。

20世紀は自由主義神学から新正統主義神学の時代。その功罪は？

ドイツ神学では、最終的にはその実存主義的な観念論から始まっているのでその観念から抜けだせない。語りえない神を人間の実存から弁証法的に神を語ろうとする限界。もし抜け出すとしたら神を必要としない成人になるとき。

アメリカの新正統主義はアカデミックな分野の社会や倫理に限定されていて、教会の福音伝道と常にリベラルとして対峙した関係にある。

　　　　聖書学、考古学、教義学は遡りだが、倫理や教理の組織神学は時代の影響を受けやすい。

Ｂ．実証主義哲学との出会い。（留学生時代）

英国の宗教哲学者で聖職者であるジョン・ヒックとの出会い。神は形而上学で論じるものではなく、信仰者によって体験され実証される。つまり理性で理解できるのではなく、信仰という物差しを「理性」として用いる。エステル記は神の用語を用いないで神の存在を出来事として語り証ししている。旧約聖書の創世記の神信仰の始まりを再理解。

* 1. キリスト教の本質を「キリストの供与の愛」＝神の本性を語る
  2. 宗教多元主義（日本でのバプテスト教会での牧会・伝道時代）

慶応大学宗教哲学者　間瀬啓允氏との出会い。共同研究者

1990年ごろ宗教多元主義が注目される。他宗教への再理解。遠藤周作氏への影響。

ジョン・ヒックは、供与の愛を共有できる宗教を、良い実を結ぶ宗教として多元主義を唱えた。英国では海外移住民の増加で他宗教を認めざるを得ない状況を先取りした。宗派や教派は、神の本性を宿す仮宿にすぎない。多元主義に対する日本では東京神学大学からの反論。「神学５５号」。但しジョン・ヒックにはキリストの復活の意義が欠如していて、死後の永世の命を体験する信仰の真理性を強調している。つまり死後、神の永遠の命に与って信仰の正当性が証明される「終末論的証明」を唱えている。私見として現世での信仰者の確信としてキリストの復活信仰がキリスト教徒のユニーク性と考えるべきではないか。

1. エキュメニカルへの世界。（聖書協会での働きの中で）
   1. キリスト教の教派は歴史的生い立ちや、教会制度、教義の解釈の違いであり、３位一体の神、キリストの神性と人生の両方を満たした受肉した神、この教義を有するすべての教派は、同じ土台に立っている。世界聖書協会役員。
   2. ローザンヌ会議、JEA会議、NCC, カトリック聖書委員会。日本プロテスタント150周年大会、共同訳委員会。
2. 他宗教で、独自の歴史で生まれた宗教は、「供与の愛」（隣人愛）を説く限り、キリスト教から排除するものでなく、共存するもの。多元主義宗教の共存。WCRP
3. 現代のキリスト教世界の動向を概観する
   1. ヨーロッパの新正統主義の隆盛と限界、衰退。伝統的プロテスタント教会の衰退。英国、ドイツなど。教会の使命がこの世に仕えること。カトリックは他宗派への和解工作―プロテスタントと正教会へ。正教会は積極的なWCCへの参加がみられる。ギリシャ正教会とロシア正教会との対立が勃発。
   2. アメリカの伝統的教会の衰退と新しいセクト的な福音主義教会の出現。コミニュティ教会や、メガ教会の出現。異端を含む多様性と寛容性。国際聖書・神学学会の衰退。

Ｃ．アフリカ諸国へのキリスト教宣教の成功。５０％を確保。他はイスラム教と拮抗。

　　元の宋主国の教会が宣教している。東側は英語圏。西側はフランス語圏。

Ｄ．南アメリカのペンテコステ派の伸長。100％カトリックから30％のプロテスタントへの改宗が進んでいる。

Ｅ．アジアでは韓国長老派の伸長。カトリックを含め人口の３０％。中国のユニオン教会の伸長。地下教会を含め１０％。主なキリスト教の盛んな国は、シンガポール、インドネシア、台湾など５％。オーストラリアのプロテスタント教会の覚醒。ベトナムの10％とフィリピンの70％カトリック教会の伸長。21世紀は南半球の活躍の時代。

F.　日本のキリスト教は新正統主義のドイツ神学か、アメリカの神学と宣教スタイルの影響を、そして韓国の教会の影響を受けている。日本発独自の神学や宣教は皆無。ミッションスクールでは教育的キリスト教の学びで終止。神学者は西洋の神学の伝達者。世界から日本をみて、日本独自の新しいキリスト教宣教をシンプルに考えて宣教する必要性がある。

　　　参考著書：修士論文「ジョン・ヒックの「終末論的神存在の証明」」英文。「もう一つのキリスト教」ジョン・ヒック著　間瀬・渡部共訳（教団出版局）。青山学院神学論集「ジョン・ヒックの神考察へのアプローチ」。「死後の世界への信仰論的考察」。「宗教多元主義の探求」（大明堂）2章への寄稿「日本におけるヒック研究」。「イエス・キリストに出会う」（ヨベル）渡部信説教集。